

□先住慧運洞光大和尚



少林寺首座修行

神田洞光、平成十九年六月十一日遷化、世寿八十六歳。大正十一年北海道で生まれる。旧姓神谷孝三。父は恒七、洞光三歳の時に三十二歳で死去。母きし乃、享年六十九歳。父は岐阜県揖斐郡坂内村、母は滋賀県東浅井郡虎姫で出生。二十歳で結婚し、開拓移民として北海道へ渡る。父亡き後、母は四人の子を抱え生活もままならず、父の実家の坂内村に身を寄せる。洞光小学二年の時、福井県丸岡町の長昌庵(現長昌寺)に預けられ小僧となる。翌年、石川県金沢の常松寺境洞巖和尚の得度を受け僧侶の道へ。洞巖和尚の「洞」の一字を貰い、「洞光」の僧名となる。小学校卒業すると福井県に戻り長昌寺住職神田徳仙(後の広巖寺十七世住職)の下小僧修行を始める。昭和十四年十七歳で永平寺へ上山。修行を終え、駒澤大学仏教学部へ入学するも学徒動員召集令状、満州

吉林省で終戦を迎えた。永平寺で再び修行を続ける。足かけ十年の修行。その間、越前市(旧武生市)少林寺三輪璞淳和尚結制にて首座を勤める。神田徳仙の法を嗣ぎ、その後、徳仙和尚が本山より派遣され広巖寺十七世となる。その頃



永平寺修行時代 前列右端

同じく神田姓に。昭和三十五年徳仙和尚死去に伴い、昭和三十八年に住職の式(晋山結制)及び永平寺七十三世熊沢泰禅師を戒師に五日間の授戒会を修行。布教活動に尽力。お寺ではそろばん塾、また中条町公民館長、役場奉職等偉大な功績を残された。本年十三回忌を迎える。本師大和尚報恩の供養をお勤めいたします。

大本山永平寺参拝と

京都・おごと温泉の旅

先住十三回忌法要

期日 九月二十六日(二十八日)

(二泊三日)

旅費 六万円

人数 四十名

申込金 一万円(旅費充当)

切 八月末日

\*詳細はお寺まで



花まつり開催

(お釈迦さまのご誕生を祝う法要)

期日 五月十二日(日)

時間 午前十一時

場所 善良寺本堂(西栄町)

主催 胎内市仏教連合会

\*本町通り白象行列行進あり



お稚児さんもお参り

▽副住職(長男)

宗務所梅花流講師を務め、当寺の練習会にも指導している。永平寺授戒会にも法堂両班兼詠讚歌指導の任に当たる。

▽千眼寺(二男) 村上市平林

宗務庁の梅花流師範養成所(二年間)の研修を終え、四級師範の資格を得る。七月一日大般若会に併せて先住山本哲彦老師の七回忌法要が厳修される。

▽雲泉寺(三男) 関川村土沢

近々住職となる予定で、2021年秋には住職一度の盛儀である晋山式を挙げる。緋の衣を身に付ける日も近い。

大般若会ご案内

日時 6月10日(月) 午前10時より

内容 大般若祈祷法会  
先住神田洞光大和尚十三回忌法要  
檀信徒先祖供養法会

おとき

\*詳細は別紙参照